



あの体験を多くの人の心に届ける 力強い歌声にのせて 大成功の市民ミュージカル

史を学ぶ場として、大いに施設を活用ことがたくさんある。一関の水害の歴は、過去に経験した人から教えられるた。阿部栄男事務局長は「災害時の行動 してほしい」と呼びかけます。 ボランティアガイドとして、語り部、をはカスリン・アイオン台風の体験者が まな催しに力を入れています。同館で水害体験を風化させないためのさまざ る催しが数回にわたり行わ 務めているほか、写真展、水害体験を語 れてきまし

域の人から当時の状況を聞く催しが カスリン・アイオン台風を体験した地 川崎町では7月7日、子どもたちが

の歴史や文化、治水などさまざまな情川学習交流館「あいぽーと」は、北上川

狐禅寺に平成15年オープンした北上

情報発信の基地であいぽーとであった。

がっていくのです。

教訓を生かした、未来への備えにつな を語り伝えること。このことが過去の るためにとても大切なのが、災害体験

ち、当時のことを知る人は少なくなり ました。災害に強い地域づくりを進め



るあいぽーと 中 川崎町で水害体 験者が子どもたち に語りました 下 一関商工会議所 は水害の被害を伝 えるDVDを製作 し配布

かせました。

## 写真集「一関の年輪」を刊 「水害の悲惨さを伝えたい」

で紹介。そのうち約7分の1をカスリ代まで、一関が移り変わる様子を写真刊行されたこの写真集は、明治から現 様子などで占めています。 ン・アイオン台風の被害とその復興の 實さんが収集・撮影した写真に資料、 ンタビューなどを交えた「一関の年輪」 ます。市内のアマチュア写真家、故横田 とに大きな役割を果たした一冊があり (同刊行委員会発行)です。平成2年に 水害被害の悲惨さを広く知らせるこ

崎の葛西信一さんが語り部を務め、カ動の一環として行われました。同町門ホタルについて学ぶ「ほたる探偵団」活 子どもたちに図面で示しながら語り聞 スリン台風で自宅が浸水し、北上 人や家が流される様子を見た体験を、 川を

の小・中学校に配布されます。 DVDは関係機関のほか、市内すべて 地事業や今後の防災体制の課題も紹介。 者の証言を交えて、堤防工事、一関遊水 アイオン台風の思い出~」を作成しま るDVD「水が伝える物語~カスリン・ 記念し、水害被害と復興の様子を伝え 部貞宏会頭)は同会議所創立60周年を なものがあります。一関商工会議所(字 した。両台風の様子を写真と水害体験 伝える手段として、映像の力は大き

パクトがあるから」と永澤卓三代表。横 「何といっても、写真は文章よりイン

会話できるようになったと聞き、やっ 寄りが、この本を見ながら生き生きと や孫たちとあまり会話のなかったお年 に出したいと刊行委員会を立ち上げま 田さんの写真展を見て、この写真を世 した。発刊後は「思った以上の反響。子

録する年輪は、今も刻まれています。10年に発行したい」。一関の歴史を記撮りためている写真で、3冊目を20夕ベース化し、「未発表の写真と、現在 は横田さんの遺した写真とネガをデ Ⅱ20世紀の一関」を刊行。現在同委員会 てよかったと実感した」と語ります。 12年には、2冊目となる「一関の年輪

## 復興を遂げた市民の物語に 600人が涙で見入る

ていました。 賞した観客は、惜しみない拍手を送っ 人の熱演に、時に涙を浮かべながら鑑 員長)が主催。6歳から73歳までの約50 センターで上演されました。「みんなでル「今伝えよう一関の年輪」が一関文化た日と同じ9月16日、市民ミュージカ ミュージカル実行委員会」(畠中良之委 アイオン台風により磐井川が決壊し

聞かせる形で展開レビー。夏まつりの時、孫に自分の体験を語り 奇跡的に助かった主人公サエコが一盟よる水害で宮城県登米市まで流され、 の「一関の空」を共に歌い上げ、会場はナーレでは、出演者と観客がテーマ曲 を力強い演技、ダンス、歌で表現。フィの中を助け合って復興に立ち上がる姿 太鼓演奏でスタート。アイオン台風に ることが決まり、新たに出演者を公募 風6年事業のメーン行事として再演す た作品を、今年はカスリン・アイオン台 民ダンスミュージカルとして演じられ ともに市民によるオリジナル。昨年、 キャストをはじめ脚本、振り付け、 立ち上がる市民の姿を描いたもので、 を基に、失意と絶望から力強く復興に 大きな感動で包まれました。 して4月から取り組んできました。 観客、スタッフ双方の心に大きなも 舞台は時の太鼓顕彰会による勇壮な 市民が家族や家を失った悲しみ、そ 年、市

習は大変だったけど舞台は楽しかった。子役の赤崎悠菜さん(南小6年)は「練 体験談を聞くことができた」と主役サ 今回の出演をきっかけに周りの人から 験者の話を聞いたことがなかったが じている。今までは身近にいる水害体 から大きな声援をいただき充実感を感 ならず、とても不安だったが、お客さん 水害の恐ろしさを観客に伝えなければ のを残したこの舞台。「自分が知らない エコを演じた茂庭幸子さん(34)。姉道

> した。 あった。今は言葉にできないぐらいのが、今回は地元ならではの思い入れがな都市で市民ミュージカルに携わった 務めた岩渕憲昭さんは「全国さまざま ちを作り上げたことはすごい」とにっ昔の人が、あの水害の後に今のこのま 感激と、誇らしさでいっぱい」と語りま こり。市出身の俳優で賛助出演、演出を

ストーリーは、アイオン台風の実話

うな試みが続けられることで、子ども や踊りで楽しめた」と話しました。 は「水害のことは学校で勉強した。ミ では」と鑑賞した50歳代の女性。15 たちに水害の恐ろしさを伝えられるの ュージカルは去年も見たが、今回も歌 を鑑賞した佐藤仁泉さん(山目小5年) 「舞台をきっかけに台風の記憶を多 小学生と水害体験者向けの招待公演 「演技も歌も素晴らしかった。このよ

デルとなった千葉貞子さん(67)=宮前もらえれば」と畠中委員長。サエコのモ は時代が変わっても変わらない ります。大切な人を失うつらさ、悲しさ たきっかけを振り返りました。 験が忘れ去れてしまうと危機感が出て くの人に伝え、議論する機会を持って に一人以上の人が舞台を見たことにな きて」と、自らの体験を話すようになっ なかった。年齢を重ねるうちに、あの体 町=は「昔は、あの記憶に触れられたく 2回の公演を合わせた観客は約1 0人。市の人口からすると1



「一関の年輪」刊行委員会 代表の永澤卓三さん





上/北上川で助けられ たサエコが父親と対 面するシーン 中/熱の入ったリハー う岩渕憲昭さん 下/主人公サエコのモ デル、千葉貞子さん 右/クライマックスの 復興への願いを込め て市民が踊る場面

9

て多くの人の胸に刻まれました。

ュージカルを通して、そのことが改め